

# “輝くOG! IV”

特集  
学長対談  
SPECIAL EDITION

離島で働く一人の女性医師。  
三重大学OGでもある徳先生に  
内田学長がその想いを訊いた。



おきのえらぶ  
沖永良部徳洲会病院  
平成2年開設。病床数は132床。  
沖永良部島では唯一の総合病  
院であり、救命救急・急病診療に  
も24時間体制で取り組んでいる。

## ★離島のために、自分にできることを ~輝くOGIV~ File. 20



沖永良部徳洲会病院にて  
(鹿児島県沖永良部島)

徳  
Toku, Ryoko  
涼子

沖永良部徳洲会病院  
小児科医

大阪府生まれ。2001年春に三重大学医学部卒業後、同  
大学小児科に入局。2007年秋に鹿児島県沖永良部島  
に移住し、2008年5月より現職。



(病院玄関にて) 真ん中は徳先生の娘・咲子ちゃん

### 島内唯一の小児科医

学長：今、奄美群島<sup>※1</sup>では小児科医は何人いるの？

徳先生：奄美大島の県立大島病院に小児科があり、5人の医師が勤務  
しています。徳之島は非常勤の先生だけで、与論島にはいま  
せん。沖永良部島は私一人ですね。

学長：他の小児科医に相談したいときに困らない？

徳先生：患者さんを紹介した先の先生に相談させていただいたり、他の  
分野のことで相談できる機会は増えてきました。三重大学の  
先生には今でも電話やメールで相談させてもらうこともあります。

学長：それなら安心やね。他に島ならではの難しさはあるの？

徳先生：台風の時期は困りますね。島での診療には限界があるので、設  
備の整った大きな病院への搬送は天気が悪いとできなくなって  
しまいます。搬送するかどうかの判断と、物理的に搬送できるか、  
その両面で難しさを感じますね。

※1：奄美群島…鹿児島県南南西の太平洋上に浮かぶ奄美大島、徳之島、沖永良部島、喜界島、与論島  
などからなる島嶼群

### 島々の協力体制

学長：ここからだ一番搬送しやすいのは奄美大島か沖縄やね？

徳先生：沖縄の場合はドクターヘリがあるので、電話をすれば40  
分後には来てくれますね。奄美大島へは自衛隊のヘリで  
の搬送になるのですが、救急用のヘリではないので連絡  
をしてから到着までに2~3時間はかかってしまいます。奄  
美大島でも今後ドクターヘリの導入が予定されています。

学長：そうすると今は患者さんの負担の少ない沖縄への搬送  
が一番助かるわけやね。

徳先生：そうですね。沖永良部島からは奄美大島と沖縄は同じ  
距離なのですが、島の人にとっても沖縄のほうが行くことも多くて親戚もいたりするんですよ。  
鹿児島県としては奄美群島内で医療圏を作りたいようなのですが、奄美大島には大学病院  
のような三次救急医療機関がありませんし、沖縄の協力は欠かせないと思いますね。



### 患者さんは心の支え

学長：徳先生みたいに熱心な先生が来てくれて、みんな喜んでしょ。



徳先生：いやー、まだまだ力不足ですけどね(笑)でもこっちに  
来て丸5年なんですけど、患者さんが、1回りの診察だ  
けじゃなく、何かあったときに“いつも自分のところにき  
てくれている”っていうことが本当に心の支えですね。

学長：絶対そうやと思うわ。私自身も整形外科医として勤め  
ていたのでよく分かる。

徳先生：必要とされていないと、やっぱり波ができますよね。自分  
の自信には。

学長：どこにいても、“患者さんが信頼してくれている”とい  
うのは医者への生き甲斐やね。

### 未来の医師たちにむけて

徳先生：駒田先生<sup>※2</sup>に言われて今でも心に残っているんですが、『分からない』という言葉は簡単  
には言っただけいけない。その分野の世界一の医師が知らないと言ったときに初めて、『分か  
らない』と言いなさい』と。こっちに来て佐々木院長<sup>※3</sup>からも、「離島ではできることしかできな  
い。2年目は2年目なり、3年目は3年目なりにできることを精一杯する。特殊な技能をもっている  
人だけが離島医療をできるわけじゃない」と言われました。自分にできることっていうのは限ら  
れているけれど、その中でできることを一生懸命に取り組んでほしいと思います。

学長：「できることしかできない」。このことを理解することは大事やね。どれだけ一人で頑張って  
もできないことはいっぱいあるからね。できることをいかに着実にこなすかが大切なんや。

徳先生：そうですね。それと、私の場合は家庭があつての仕事だと思っています。それぞれ自分が一  
番大切なものは何かっていうことをしっかり見極めた上で将来を考えてもらいたいですね。

※2：三重大学医学部附属病院小児科 駒田美弘教授  
※3：沖永良部徳洲会病院 佐々木紀仁院長

## ● 特集 ● 輝くOGIV ● 広報室員 が見た! 沖永良部島は こんなトコロ



田皆岬

鹿児島県大島郡に属し、九州本島から  
南南西へ約540kmの地点に位置するサン  
ゴ礁からなる島です。島へのアクセスは鹿児  
島または沖縄からフェリーか飛行機で。飛行  
機なら1時間前後で到着することができます。

自然豊かなところで、島の空気と景観に  
心癒されました。島をひらひらと舞う蝶にさ  
れいな草花。奄美群島国立公園の田皆岬  
からの眺望はとても美しく圧倒されました。  
島の天然記念物に指定されている鍾乳洞「昇  
竜洞」も非常に神秘的な空間でした。

名産のマンゴーは、とろけるような口当  
りや程よい甘さが最高で、「これが本物のマ  
ンゴーやったんや!」と叫びそうになりました。  
島の人々もとても温かい方ばかりで、本  
当に良いところでした。興味をもたれた方は  
ぜひ沖永良部島へ!



昇竜洞



徳先生  
ご協力ありがとうございました

これからも  
頑張ってください!